

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

基本方針	基本目標	自己評価(達成度)別事業数					自己評価・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 (スポ柳都にいがたプラン推進会議) 評価(ご意見・ご要望等)
		A	B	C	D	E		
健康スポーツ	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	1	3	2	4	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止となった中、「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」などに基つき、規模を縮小しながらも実施した事業もあった。このことにより、ウイズコロナに即したスポーツイベントのあり方や実施のノウハウを得ることができた点は、前向きにとらえている。</li> <li>○ スポーツ・レクリエーションに親しむ環境を回復するためには、体感型のイベントの充実が必要である。まずは、新型コロナウイルスの影響を慎重に判断するとともに、予防措置の徹底に重点を置いて実施をすすめる。</li> </ul>	○事務局評価等のとおり
競技スポーツ	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	0	0	1	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルスの影響により、実施できたのはジュニア強化事業とスポーツ指導者講習会等だけであった。ジュニア強化では、事業の継続によって全国大会で活躍する選手が輩出されるなどの成果が見られ、指導者講習会は、ウイズコロナに即してZOOMで実施した。</li> <li>○ 引き続き、ジュニア強化や障がい者スポーツの普及に資する事業を実施していくが、健康スポーツと同様に、新型コロナウイルスの影響を慎重に判断するとともに、予防措置の徹底に重点を置いて実施をすすめる。</li> </ul>	○事務局評価等のとおり
みるスポーツ	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	0	0	2	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロスポーツ観戦招待は、成績不振と新型コロナウイルスの影響による観客数の制限が重なり目標数を達成できなかった。しかし、その代替として、小学校高学年向けのふれあい教室をウイズコロナに即したかたちで実施し、トップアスリートとの交流機会を維持した。</li> <li>○ WEB広告を活用するなど、告知方法の見直しを図る。</li> <li>○ 新潟市文化・スポーツコミッションと連携して、引き続き大会・合宿の誘致に努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの観戦招待に伴ってその家族に見てもらおうということは、普及の意味で非常に重要。</li> <li>○経済的や家庭環境などを理由に、観戦に行きたくても行けないような子供たちへの配慮も必要ではないか。</li> <li>○観戦招待の広報では自治会の回覧板も引き続き活用すべき。</li> </ul>
支えるスポーツ	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	1	4	1	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツに親しめる環境づくりとして、ハード面では引き続き、必要な補修工事を行いながら中長期的な大規模改修や集約化の検討を進めていく。またソフト面では、スポーツ推進委員やジュニア層指導者向けに資質向上の機会を提供し、地域における人材育成を推進しており、引き続き、地域で気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを促進する。</li> </ul>	○事務局評価等のとおり
スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	0	1	1	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツ医科学支援体制については、にいがたスーパージュニア育成事業である3団体を対象として事業を実施し指標のとおり達成した。引き続き、強化指定選手を医科学面でさらにサポートしていく。</li> <li>○ スポーツ情報の発信については、引き続き利用に関わる情報を迅速かつ適切に提供していく。</li> </ul>	○事務局評価等のとおり

※各事業の自己評価は、別紙参照



## 第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおりに達成 D・・・指標を大きく下回った 1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標	R2実績	(参考)R1実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	新潟シティマラソン	令和元年度の第38回大会は台風の影響で、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていないが、市民のみならず、国内外から多くのランナーを迎え入れている。市民の健康増進、地域の一体感醸成・活性化、本市の魅力発信や交流人口の拡大に寄与している。  令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により代替イベントを開催 ・リモートチャレンジ(オンラインマラソン) 10月4日～31日 ・10000mタイムトライアル 10月9日～11日	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 ・リモートチャレンジ 1,498人 ・10000mTT 474人	エントリー者数 12,706人  市内:7,123人 県内:2,753人 県外:2,830人 (うち国外:74人)	D	新型コロナウイルス感染症の影響により通常大会は開催できなかったが、代替イベントを開催することができた。	7	新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、事業の性質上、通常大会の開催は難しい状況にあるが、将来の再開を視野に、代替イベントを開催していく。
		44,794	20,436	25,992					
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。  令和2年9月12日～9月27日 種目:バレー・野球・サッカー 参加チーム総数:164チーム	エントリーチーム数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:74チーム バレー:30チーム ※ミニバスケットボールの部は中止	エントリーチーム数 野球:67チーム サッカー:68チーム ミニバス:140チーム バレー:29チーム	D	新型コロナウイルス感染症対策として、全競技共通、競技独自の対策を図り大会を実施した。ミニバスケットボールの部については、競技別ガイドラインにより中止とした。	2	R2年度より、熱中症対策として8月下旬から9月下旬に開催日を変更した。引き続き児童等の健康に配慮しながら事業を進めていく。
		220	220	220					
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図るにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催。(中止) 【第54回新潟市早起き野球大会】 期日:令和2年5月17日～7月26日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 他9会場 エントリーチーム数:113チーム	エントリーチーム数 160チーム	中止	エントリーチーム数 132チーム	E	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催した場合の三密リスクへの対策準備が難しいことから、中止とし、指標を下回った。	2	開催可否に関しては新型コロナウイルス感染症の動向次第となるものの、感染症予防対策の在り方や、参加チームの維持・増加につながる対策を検討し、競技方法及び運営方法を改善するなど大会の魅力向上に努める。
		2,000	2,000	2,000					
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベント。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、エントリー受付開始を遅らせたが、開催した場合の三密リスクへの対策準備が難しいことから、延期したエントリー受付開始前に中止を決定した。	エントリー者数 ロングライド:550人 ミドルライド:50人 ショートライド:50人	中止	エントリー者数 ロングライド:631人 ミドルライド:112人 ショートライド:49人	E	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催した場合の三密リスクへの対策準備が難しいことから、中止とし、指標を下回った。	2	令和3年度は感染症予防対策をとり、開催できるよう努める。
		100	0	100					
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクリングスポーツの振興を目的として、岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるヒルクライムを開催した。  令和2年9月6日(日) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km)	エントリー者数 500人	エントリー者数 436名	エントリー者数 493人	C	令和2年度、弥彦競輪場の都合でタイムトライアルが開催できず、エントリー者数は目標を下回った。しかし、令和元年度のヒルクライムのみの参加者数373名を上回った。	2	新型コロナウイルス感染症予防対策をとっての開催となった。参加者からはおおむね感染症対策を評価する声があった。次年度以降においても予防措置を図りながら開催したい。 (令和2年度は自転車競技役員との都合上タイムトライアルを実施しない)
		900	1,000	900					

## 第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおりに達成 D・・・指標を大きく下回った 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標	R2実績	(参考)R1実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
6	氷上スポーツ体験学習 推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時の施設利用料金とバス送迎に係る経費を助成した。	実施校数 70校	実施校数 52校(53件)	実施校数 55校(58件)	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施をとり止めた学校(8校)があり、昨年度実施校数(55校)より、実施校数は下回った。しかし、申込校数は昨年度よりも増加した。また、これまで利用がなかった学校の参加がみられ、より多くの小学生等に氷上スポーツ体験の機会を提供することができた。	1	各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始期を引き続き早め、実施の機会を増やしていく。 新潟市アイスアリーナにおける新型コロナウイルス感染対策についてを引き続き周知し、実施校数の増加、新規に本事業を導入してくれる学校の発掘が必要であり、取り組みが必要と考える。
			2,600	1,748	1,773				
7	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催する。 開催に向け実行委員会を開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けを中止とした。 ・一般の部(混成の部) ・小学生の部(低・中学年の部、高学年の部) 対象:低中学年 4年生以下 高学年 5年生以上	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	中止	エントリーチーム数 一般の部:21チーム 小学生の部:56チーム	E	実行委員会の開催	2	新型コロナウイルス感染症により開催中止
			224	0	224				
8	健康・体づくりのつどい (スポーツ協会)	市民が気軽にスポーツを体験することにより、新たなスポーツ人口の発掘・底辺拡大を目的に、スポーツレクリエーションを新規事業として開催した。	参加者数 2,300人	参加者数 600人 ※コロナ影響で 人数制限や 事業再編実施	参加者数 1,700人	B	新型コロナウイルス感染症の影響による代替事業として、スポーツの楽しさを知る体感イベントとして、日本スポ協が推奨のアクティブチャイルドプログラムや親子ヨガのほか、相撲・陸上・ラグビーなどの体験会を実施し、体験会を通じてスポーツを始めた小学生もおり発掘・底辺の拡大に繋がった。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、イベントを通じスポーツ少年団登録への啓発とともにチーム間交流の機会を設け活性化の一助となっている。	1	より魅力ある市民参加型イベントにするために、更に競技団体等と連携を図るほか、企業協賛の拡充を図るなど、地域と一体となって事業の充実を図る。
			1,300	744	1,285				
9	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催する。 開催に向け実行委員会を開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けを中止とした。	エントリーチーム数 95チーム 参加者数:1,250人	中止	エントリーチーム数 97チーム 参加者数1,260人	E	実行委員会の開催	2	新型コロナウイルス感染症により開催中止
			500	300	500				
10	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及と振興と競技力向上を目的に開催する。	開催種目数 春季:20種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:1種目 秋季:21種目	開催種目数 春季:26種目 秋季:28種目	D	市民総合体育祭を主管する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。 新型コロナウイルス感染症の影響より指標を下回った。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから感染防止の対策を講じながら継続し実施していきたい。
			1,350	478	1,140				
11	新潟県障がい者スポーツ 大会開催事業	新潟県とともに開催予定であった全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。	参加者数 個人競技:6種目・ 750人 団体競技:5種目・ 270人	※出場予定者 個人競技:6種目・ 76人	参加者数 個人競技:6種目・ 627人 団体競技:5種目・ 161人	E	新型コロナウイルス感染症の影響により大会を中止した。	2	大会の周知を行い、参加機会の拡大に努める。
			768	0	768				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った
		1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他	

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標	R2実績	(参考)R1実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について、講習会の開催や指導スタッフの派遣を実施するとともに、自宅でも楽しめるオンライン講習会を開始し、高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいづくりに気軽に取り組める機会を提供した。また、指導者養成講座を開催し、市民による自主的な広まりを推進した。	講習会等参加者数 延7,900人	講習会等参加者数 延3,337人	講習会等参加者数 延8,729人	D	新型コロナウイルスの影響で4月、5月の講習会は中止し、6月以降も定員を半分に実施するとともに、アートミックスジャパンや新潟総おどりが中止となったため、参加者数が減少した。	2	健康づくり等への関心が薄い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めていく。 令和2年度より開始したオンライン講習会を一般の参加者だけでなく、施設利用者にも参加が広がるよう周知を図っていく。
2	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し、全国健康福祉祭ぎふ大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行う。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で大会の開催が見送られ、派遣は実施しなかった。	派遣人数 138人	派遣人数 0人	派遣人数 86人	E	新型コロナウイルスの影響で、全国健康福祉祭ぎふ大会の開催が見送られ、新潟市選手団の派遣を実施しなかったため。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら、予選会の参加種目を増やすなど、より多くの高齢者の参加につながるよう周知するとともに、派遣方法についても柔軟な対応を進める。
4	ウォーキング チャレンジ事業 (保健所健康増進課)	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、企業・事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会の増加や定着にチャレンジする。	参加事業所数 72事業所	参加事業所数 87事業所	参加事業所数 92事業所	A	新潟県の類似事業の開始、コロナ禍での健康づくりとなり、参加事業所数は前年度を下回ったが、目標を達成できた。他の健康づくり事業と併せて奨励したことにより、21事業所から新規に参加していただいた。	1	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、年2回の実施に拡大するとともに、参加事業所の増加を目指して取り組みを継続する。
5	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ、親睦と友情の輪を広げながら「共に生きる喜び」をわかちあい、障がいや障がいのある人への理解を深めるため、「新潟市障がい者大運動会」を開催する。→ 令和2年度中止	参加人数 800人程度	中止	参加人数 700人	E	新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、令和2年度及び令和3年度の開催について、中止を実行委員会で決定した。	7	令和4年度以降の開催については、令和3年度の実行委員会で検討する。
6	学校施設開放事業 (教育委員会 地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図るために、学校教育に支障のない範囲で、市立の学校施設等(体育館、武道場、プレイルーム等)を開放する。	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	B	学校施設を開放し、市民の健康増進と競技力の向上が図ることができた。	2	学校施設を開放することにより、市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。
			3,995	3,949	2,995				
			5,177	96	5,253				
			166	147	153				
			1,019		1,019				
			30,176	24,585	29,321				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った
		1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他	

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
7	体力向上ジャンプアップ 推進事業 (教育委員会 学校支援課)	市内全小・中学校の取組を集約し、冊子にまとめ、全小・中学校に配付した。他校の取組を知ることで、自校の取組みの改善に生かすことにつながった。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	B	計画通り実施できたため。	2	各校の取組を共有することで、取組の見直しにつながるから。
8	子どもの体力向上指導者 養成研修会への 体育教員派遣 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に、市内小・中学校から2名の教員を派遣した。研修後、派遣した教員が指導者となり、市内全小学校、市内の中学校(30人以上)を対象に伝達講習会を実施する予定であった。	幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣	中止	小学校から2名の教員、指導主事1名、合計3名を派遣	E	計画通り実施できなかったため。	2	新学習指導要領全面実施に向けて、新学習指導要領の理解を深めるために必要であるから。
9	小学校幼稚園 体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施する予定であった。	対象者:1回目53人 (北区、東区、中央区、 江南区から各校1名) 2回目55人 (秋葉区、南区、西区、 西蒲区から各校1名)	中止	119名の参加 (6月開催)	E	計画通り実施できなかったため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。
10	中学校保健体育指導者 研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施する予定であった。	対象者28人(西蒲区、 西区、南区、秋葉区の 学校から各校1名)	中止	28名の参加(11月開催)	E	計画通り実施できなかったため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。
11	中学校柔道実技講習会 (教育委員会 学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し、講習会を実施する予定であった。	対象者29人 (帰宅、東区、中央区、 江南区各校1名) ※中等含む	中止	参加者31名	E	計画通り実施できなかったため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。			
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施する。但し、※新型コロナウイルス感染症の影響により、ジュニア強化事業及びSJ事業実施の一部団体は中止とした。  ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援を行った。  ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化を行った。  ◆水上スポーツ教室事業 国内外で活躍する選手や講師を招聘し、アイスホッケーの教室・体験会を行った。	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 水上スポーツ教室事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 24団体 SJ育成事業数 3事業 水上スポーツ教室事業実施数 1団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 水上スポーツ育成事業実施数 3団体	C	ジュニア強化事業は各団体を対象に実施状況や課題等のヒアリングを行い、双方ともに共通の認識を持って強化を図っている。 フィギュアスケート全日本小学生女子6年生の部に3位に入賞し今後を期待したい。 SJ育成事業は3競技を継続とし実施している。特にボクシングでは自衛隊体育学校でオリンピックなど目指し着実に力をつけており、成果としても期待できる。 水上スポーツ教室事業においては、団体代表選手を招聘し、アイスホッケージュニア体験スクールを実施した。しかし新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各競技における教室開催数が減少した。	1	ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、オリンピック予選会に出場するなど成果が出ていることから競技団体と連携を図り強化を継続していく。 水上スポーツ教室事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。また、新型コロナウイルス感染症感染防止に係る競技別ガイドライン等を遵守し、安心安全な教室事業となるよう努め、実施機会の拡大を図る。
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催する。 新型コロナウイルス感染症の感染防止のためオンライン(zoom)により開催した。	講習会開催数 1回 100人	講習会開催数 1回 12人	講習会開催数 2回(I部・II部) 定員60人	D	今回のテーマは、「スポーツ指導現場におけるケガの対処法」と題して開催した。今回の開催は、コロナ対策によりzoomでの開催。	1	多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、テーマのや日程などについて、引き続き検討する。
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高生に対しても激励金を支給した。	国体出場者 193人 国際大会等出場者 18人 小・中・高校生全国大会出場者 532人 障がい者スポーツ 59人	国体出場者 0人(中止) 国際大会等出場者 18人 小・中・高校生全国大会出場者 176人 障がい者スポーツ 1人	国体出場者 147人 国際大会等出場者 26人 小・中・高校生全国大会出場者 361人 障がい者スポーツ 10人	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の開催中止が相次ぎ、申請件数及び支給実績が例年に比べ大幅に減少した。	2	今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興を図る。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。			
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	令和2年10月に開催が予定されていた第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」へ新潟市代表として選手を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け派遣を中止した。	個人競技 18人	派遣なし	派遣なし (予定:個人競技 19人 団体競技 8人)	E	新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を中止した。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため、より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。
			13,663	3,886	6,000				
5	障がい者スポーツ推進事業	共生社会の実現に向け、また、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツに取り組むきっかけや競技力の向上及び障がいの理解促進のため、動画配信による講演会や、体育施設職員等を対象とした障がい者スポーツの体験会を開催した。また、障がい者スポーツの普及へ向け、体育施設において競技用具を整備し、貸出事業を開始した。なお、予定していたナショナルチーム合宿はコロナ禍により中止となった。	講演会・体験会の参加者数 100人	講習会・体験会の参加者数 19人	講演会・体験会開催中止	D	コロナ禍により、講習会を動画配信としたため、参加者数としては目標の1/5程度となった。	2	障がい者スポーツの普及へ向け、体育施設における競技用具の整備と競技用具の貸出事業を継続して実施する。あわせて、体育施設職員等へ向けた講演会・体験会を実施する。
			2,200	1,030	0				



## 第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。			
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	ドキドキ・ワクワクスポーツ ふれあい促進事業	<p>プロスポーツチームを通じ、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。</p> <p>1. サッカー教室開催(アルビレックス新潟) 期日: 令和2年10月18日～令和2年11月22日 全8区で開催 会場: 小須戸体育館ほか</p> <p>2. サッカー指導者派遣(アルビレックス新潟) 期日: 令和2年6月15日～令和2年12月31日 47回 会場: デンカビッグスワンスタジアムほか</p> <p>3. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟) 期日: 令和2年8月8日～令和3年3月27日まで12試合 会場: デンカビッグスワンスタジアム</p> <p>4. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟レディース) 期日: 令和2年11月14日 1試合 会場: デンカビッグスワンスタジアム</p> <p>5. ふれあい野球教室(新潟アルビレックスBC) 期日: 令和3年3月7日 会場: HARDOFF ECOスタジアム新潟</p> <p>6. バasketボール観戦招待(新潟アルビレックスBB) 期日: 令和2年10月17日、18日 2試合 会場: 新潟市東総合スポーツセンター</p> <p>7. ふれあいBasketボール教室(新潟アルビレックスBBラビッツ) 期日: 令和2年12月20日 会場: 北地区スポーツセンター</p>	<p>サッカー教室参加者数 307人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー(男子)観戦招待者数 498人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー(女子)観戦招待者数 7,241人</p> <p>野球教室参加者数 125組</p> <p>Basketボール(男子)観戦招待者数 90組</p> <p>Basketボール(女子)教室参加者数 47人</p>	<p>サッカー教室参加者数 300人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー観戦招待者数 7,200人</p> <p>野球観戦招待者数 122組</p> <p>Basketボール観戦招待者数 90組</p>	<p>サッカー教室参加者数 307人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー(男子)観戦招待者数 498人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー(女子)観戦招待者数 7,241人</p> <p>野球観戦招待者数 125組</p> <p>Basketボール観戦招待者数 90組</p> <p>Basketボール(女子)教室参加者数 47人</p>	C	<p>サッカー観戦招待者数が前年に引き続き、目標未達となった。原因として、成績不振や、新型コロナウイルス感染症対策として、Jリーグが観客制限を設けたことがある。そのため、試合によっては申し込み多数で抽選とした試合もあった。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、野球、女子Basketボールの観戦招待を実施できなかった。そのため、代替事業として、小学校高学年向けのふれあい教室を開催した。</p>	3	<p>サッカー(男子)観戦招待について、令和3年度より1年間を3つの期間に分け、期間ごとに観戦したい1試合を選んで申し込み方式に変更し、観戦層の拡大を狙う。また、告知方法について、これまでのチラシ等に加え、web広告を強化し、市内在住の子育て年代に直接広告が表示されるようにする。</p>
2	プロ野球招致推進事業	<p>官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズの三浦新監督のトークショーを計画したが、いずれもコロナ禍により中止となった。</p> <p>令和2年8月14日(金)～8月16日(日): 中止 横浜DeNAベイスターズ vs 東京ヤクルトスワローズ 令和3年1月15日(金): 中止 横浜DeNAベイスターズ 三浦大輔監督トークショー</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 2試合</p>	<p>プロ野球公式戦中止</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 2試合</p>	E	<p>コロナ禍によるイベント中止が相次ぐ中、本事業についても、プロ野球公式戦及びトークショーが中止となった。</p>	2	<p>プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れ、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。</p>
3	大会、合宿等誘致の推進	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、スポーツイベントやナショナルチーム合宿の中止が相次いだ。</p> <p>◆全国大会 天皇賜杯第89回日本学生陸上競技対校選手権大会、第104回日本日本陸上競技選手権大会、Denkaアスレチックスチャレンジカップ2020、</p>	<p>国際大会数 2 全国大会数 7 ナショナルチーム合宿数 3</p>	<p>全国大会数 3</p>	<p>国際大会数 2 全国大会数 6 ナショナルチーム合宿数 2</p>	D	<p>コロナ禍によるイベント中止が相次ぐ中、本事業についても、大規模スポーツイベントやナショナルチーム合宿が中止となった。</p>	1	<p>平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿の実績を基に、市内での合宿実績を積み上げることに伴い、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。</p>

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。			
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価				
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度 理由・原因 事業の方向 理由・原因	
4	氷上スポーツイベント 開催事業	国内のトップスケーターや県内選手によるフィギュアスケート演技発表会等を開催することで、トップスケーターの技術に触れる機会を提供するとともに、市内・県内及び近県選手を中心とした競技会等を開催することで、フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指す  OMGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィーの開催 令和2年8月29日(土)  ○アイスアリーナイベントの開催 令和2年4月19日(日) →新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	OMGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 120人  ○アイスアリーナイベント 580人	○MGCC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 58人  ○アイスアリーナイベント 中止	OMGC三菱ガス化学アイスアリーナCUP 161人  ○THE ICE2019新潟公演 30人  ○アイスアリーナイベント ※令和元年度実施なし	C  新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、アイスアリーナイベントが中止となった。感染対策を図りながら、大会規模を縮小しての開催となったが、新潟市アイスアリーナを拠点とした競技会を開催し、市内・県内をはじめ、近県のフィギュアスケートの発展と競技レベルの向上に寄与した。	3  競技会については、新型コロナウイルス感染対策を図りながら、今後、有名選手も参加するような知名度のある大会へと成長していくよう、施設や関係機関と協議・連携をし、大会内容の充実を図っていく。アイスアリーナイベントについては、知名度のあるゲストスケーターを迎えるなど、より多くの方々に楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。
			1,900	210	1,200		
6	国際ユースサッカー in新潟の開催	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、本大会は中止となった。  令和2年9月20日(土)～22日(祝・月) デンカビッグスワンスタジアム 他  参加チーム 海外招待 U17代表(メキシコ、モンテネグロ) U17日本代表 U17新潟選抜	観戦者数 7,000人(3日間)	中止	観戦者数 8,600人(3日間)	E  新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止	2  ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。  ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、令和元年度で23回目を迎えた。
			5,000	0	5,000		
7	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。(平成12年度から実施)  令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により交流を中止	交流回数 1回	中止	交流回数 1回	E  新型コロナウイルス感染症の影響により交流は未実施	2  今後も相互交流を続けることを両協会から確認している。
			0	0	0		

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。			
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。	施設利用者数 4,000,000人  ・市陸上競技場改修 ・新津金屋運動公園多目的広場芝生改修	施設利用者数 約2,300,000人  ・市陸上競技場改修 ・新津金屋運動公園多目的広場芝生改修	施設利用者数 約3,700,000人	D	利用者については、新型コロナの感染拡大防止のため、4、5月の施設休館の影響に加え、施設再開後も個人利用・専用利用いずれも減少。スポーツ振興くじ助成金を有効的に活用し、市陸の公認継続に係る改修などを実施した。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化方針の検討 個別施設計画の策定	集約化方針の検討 個別施設計画の策定	集約化方針の検討	B	財務部において個別施設計画の検討・策定し、今後庁内での調整に入る。その中で、小針野球場は施設管理を終了し跡地の売却に向けた準備を行った。	2	今後、全市的な公共施設の集約化方針が示され、各区スポーツ担当課などとともに、スポーツ施設の再編案の検討を進める。
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数:スポーツ関係499件(令和3年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係9名)	実施 (スポーツ関係9名)	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。			
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に市スポーツ推進委員連盟自主研修会を開催した。	研修会開催数 2回 参加者250人	研修会開催数 1回 参加者24人	研修会開催 2回	D	新型コロナウイルスの影響により自主研修会は中止、新年研修会は規模を縮小して開催したため、目標を下回る結果となった。	2	自主研修会、新年研修会どちらも感染症対策を講じて実施する予定。
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回 参加者160人	研修会開催数 1回 参加者24人	研修会開催 1回	D	コロナ禍により、規模を縮小したうえで、NPO法人全国ラジオ体操連盟1級ラジオ体操指導士関川正明氏を講師に招き、「いつも元気！ラジオ体操があるじゃないか」をテーマに、市民への指導・助言に必要な知識の習得を目的として、講演会を開催。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるよう内容を協議し、実施していきたい。
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。 令和2年8月1日 会場:東区プラザ 講師:洪倉崇行氏(一社)スポーツフォーキッズジャパン代表)	参加者数 100人	参加者数 63人	参加者数 78人	C	新型コロナウイルス感染症の影響を受け広く告知することができなかったが、参加者アンケートの結果では、研修内容について「参考になった」との回答が93.6%(昨年度90.5%)となり、昨年度を上回る結果となった。	1	参加者アンケートより、「シーズンオフ(1~3月)開催」を望む声が増加していることから、R3年度よりこれまでの7月下旬~8月上旬と、1月~3月の年2回開催を検討する。今後も参加者のニーズに沿った講演内容を検討し指導者の資質向上のための一助となる研修会を実施していく。
7	スポーツボランティアの育成	例年10月に開催している新潟シティマラソンにおいて、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアを公募しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小した代替イベントを開催し、学生・企業ボランティアは募集しなかった。	シティマラソン学生・企業ボランティア数 500人	シティマラソン代替イベント学生・企業ボランティア数 0	シティマラソン学生・企業ボランティア数 674人	E	規模を縮小した代替イベントを開催したことで、スポーツ推進委員などのボランティアのみで運営することとなり、募集しなかった。	5	新型コロナウイルス感染予防と、シティマラソンの開催が延期により、ボランティア活動も休止とする。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。			
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	スポーツ少年団の育成 (スポーツ協会)	スポーツ少年団の普及・育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響より大会の中止・少子化により登録数の減少。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、通常連絡のほかメールや電話連絡などで対応した。	登録団体数 125団体	登録団体数 116団体	登録団体数 125団体	D	新型コロナウイルス感染症の影響も否めないが、少子化等の影響から、団体の合併・解散が全国的に加速しており、本市においても減少傾向にあるが前年並みの登録数となった。 少年団登録団体は市内スポーツ施設において学校料金が適応されることから例年の登録団のほか新規登録団体もある。他市町村と比べても現状維持又は団体数の減少は緩やかである。	1	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及と振興、青少年の健全育成に寄与していることから、今後も大会・指導者研修会等を継続的に実施していく。 指導・育成にあたっては、有資格指導者として、ライセンス(日本スポーツ少年団発行)の取得やの新制度への円滑な移行の観点から引き続き各団体に対し連絡を図っていく。
2	未来ポイント (スマートウエルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。 健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設の個人利用で、市共通商品券またはバス乗車ポイントに交換できる「未来ポイント」をバスICカードやおサイフケータイに付与した。	参加者数 (前年度以上)	参加者数 16,436人	参加者数 15,669人	B	感染症の影響で対象事業が減少、また、本事業終了がすることもあり、新規参加者は前年度の4分の1にとどまった。	5	高齢者層には一定の効果がみられたが、無関心層や働き盛り世代を含め、より多くの市民の参加が得られる事業に見直し、令和2年度で未来ポイント付与を終了。
3	公共交通の強化及び 利用促進 (スマートウエルネスシティの推進) (都市交通政策課)	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施	実施	実施	B	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	1	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る検討・交通結節点等の施設整備 ◇PR活動の強化 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営
4	自転車利用環境の整備 (スマートウエルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	・自転車走行空間整備の延伸(8.0km)	・自転車走行空間整備の延伸(16.5km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)	・自転車走行空間整備の延伸(21.4km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)	A	自転車走行空間整備は、予算調整を早めに行うことで、当初の目標以上の整備を行うことができた。	1	自転車走行空間整備を引き続き推進していくほか、自転車ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。
			338,807	210,391	269,354				
				41,806	64,478				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和2年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。			
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R2数値目標 予算額(単位:千円)	R2実績 決算額(単位:千円)	(参考)R1実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図る。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	B	にいがたスーパージュニア育成事業の対象である3団体を対象として事業を実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。 また、コンディショニングの調整についてはスポーツトレーナーのほか県医科学センターを活用しながら更なる競技力向上を図っている。	1	競技団体とのヒアリングを実施して課題や現状について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手を継続的に輩出していくため強化指定選手を医科学面で更にサポートしていく。
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。	システム利用件数 30,000件	システム利用件数 約20,000件	システム利用件数 29,393件	D	専用利用者が回復途上であることと関係して、システム利用件数も減少した。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約900,000件	アクセス数 約910,000件	B	新型コロナウイルスにかかる施設の利用再開情報や利用ガイドラインへのアクセスが多くあった。	2	新型コロナでわかったとおり、利用制限などにかかる情報は、迅速かつ適切に提供していく。 シティマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、情報の更新や充実に努める。